

感触遊び

0歳児クラスでは砂、絵の具、小麦粉粘土、片栗粉粘土、氷、新聞紙等、様々な素材に触れて遊びました。温かい、冷たい、硬い、柔らかい等の感触を楽しむと共に、指先、手先を使って遊びました。初めの頃は、触れる事をためらったり、怖がったりする子どももいましたが、お友だちや保育士が遊ぶ様子を側で見たり、何度も遊んでいくうちに自分から「触れてみよう」と手を伸ばす姿が見られるようになっていきました。

絵の具遊び

初めての絵の具遊びは、直接触れずにジップロック越しに触れました。手が汚れなかったのでみんな嫌がらずに触れていました。むにっ、ぐにゃ、ぼこぼこという様な感触で、指先や手の平で絵の具をつぶし広げて遊びました。絵の具が手に付かない事を不思議に思ったのか、指先を見つめている子どももいました。



2回目の絵の具遊びは、予め保育士が画用紙に少しだけ絵の具を着けておきその絵の具を指先でつついたり、伸ばしたりして遊びました。手に絵の具がつくのを嫌がる子、友だちが遊ぶ様子を見ている子、積極的に触れる子がいました。手が汚れると「拭いて!」「綺麗にして」と訴えたり、汚れた手を服で拭う子がいたり、口にいれようとする姿も見られました。保育士が誘い掛けると絵の具に興味を持ち、数人ずつ順番に椅子に座って遊んでいました。



色々な色の絵の具で遊びました。

口に入れようとする姿は少しずつ見られなくなり、両手をこすり合わせて絵の具を伸ばしぬるぬるとした感触を楽しんでみたり、画用紙に絵の具をぬったり、絵の具が混ざって違う色になる事に気がつく子どももいました。筆に絵の具をつけて手にぬってみると、くすぐったそうな表情をしていました。絵の具遊びが苦手な子ども、筆で絵の具を塗られるのはくすぐったくて楽しかったようでした。



秋ごろからは、タンポやスポンジを使って遊びました。

スポンジに絵の具を染み込ませた物を握って手に絵の具をつけたり、タンポで画用紙に色をつけて遊びました。大きな模造紙を用意すると、手型や足型をつけて絵の具の感触を楽しみました。この頃になると、絵の具を口に入れようとする姿はみられなくなりました。

「絵の具で遊びたい!」と椅子に座るが子増え、皆で一斉に座って遊ぶようになりました。

